

学級数	20	児童生徒数	527
校内委員会			
(1)名称 学校業務改善推進委員会			
(2)協議・検討内容 WLBの実施日の再検討、会議の持ち方についての検討 ルールブックの徹底、職員の意識改革の推進のための方策			
(3)成果と課題 多忙原因を共通理解でき、超勤を意識化できた。 課題克服をする共同体意識が強まり、組織としての繋がりが強化された。 教務事務の時間が短縮され、子どもと向き合う時間が増えた。			
1. 実践校の取組内容(計画書の取組項目を記載)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の意識改革の継続 ・ ルールブックの広報並びに細部の見直し ・ 通信簿のIT化の継続並びに各小学校への広報・伝達 ・ WLBの継続 ・ 年次休暇や特別休暇を取りやすい校内体制の構築 			
2. 取組の具体的内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年団を中心にした効率のよい打ち合わせ ・ 会議の並行実施・持ち方の工夫による時間短縮化 ・ 共有ファイルの整理と活用 ・ 通信簿の電子化における操作研修の実施 ・ 電子化通信簿使用による校務事務の改善、時間短縮化 ・ 年度初めと夏休み中のルールブック読み合わせ研修 ・ 文書配布用透明ボックスの設置、鍵の整理とキーボックスの整理等、職員室の環境整備と整理 ・ 職朝時間短縮のための職員室前黒板掲示の工夫と後ろに各種情報掲示黒板設置 ・ 市教委との連携、実践校として市(島)内各校への情報発信と情報・資料等の提供 			
3. 取組の成果			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、管理職・専門職等の異動が多く、教職員も管外転入・新任配置も含め多数あったが、ルールブックに従い、学年団の動きが見通せたのでスムーズに動けた。 ・ パソコン共有フォルダの閲覧・使用によって校務等の省力化が図れた。 ・ 学年団で声かけをし合うことで、業務改善における職員の意識改革ができた。 ・ 見通しを持って計画的に学年経営や校務を行い、組織化して動くことで勤務時間の短縮化が図れた。 			
4. 取組の際の工夫点や留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の「意識改革」という点では、本人の責任のもとにのみ行われるものではなく、前向きに改善を考える職場風土がなくてはならない。 ・ 管理職はじめ、多様な職種の全職員が声をかけ合い、励まし合い、共に行動できる。職場作りを進めるため意識し共有化することが必要である。 			
5. 各学校での取組活用のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務改善委員会等組織を組み立て、短期・長期の目標を立てる。 ・ 全体の声を吸い上げ、全体で取り組んで行くことが全職員の意識化を図ることに繋がる。 ・ 学校単位ではなく、市教委とも連携をとりながら市内の学校が一体となって取り組むことにより一層効率化が進む。 			

6. 取組後の職員の主な意見

- ・ 備品等、物の所在保管場所が、ルールブックに記載されることではっきりした。また、使用後も必ず元の場所に戻すという習慣も以前より意識するようになった。
- ・ 時間厳守、資料の事前配布・目通し・平行同時開催など会議の持ち方も意識化され無駄がなくなった。
- ・ 職員は必ず異動があるので、校内で取り組むべき事と市内共通で取り組むべき事がある。異動しても、共通理解しておくべきルールがしっかりしていれば困らないのではないか。
- ・ 本校のように業務改善委員会を定例化して持つことにより、「みんなで行っていく。」という連帯感が強まり、全体の意識化が進むと思われる。
- ・ ルールブックについては、見直しをはかりバージョンアップしてきた。通信簿もさらに便理に使用できるように改良を加えるということもよいのではないか。ただしその場合もやはり市内全体に拡げて市内共通認識をするのがよいのではないか。

7. 次年度の各校業務改善に係る取組について

- ・ 教職員の意識改革の継続
- ・ 現ルールブックの広報、徹底と改革
- ・ 通信簿のIT化の継続と指導要録の電子化に向けて
- ・ WLBとノーマル会議データの継続
- ・ 年次休暇や特別休暇を取りやすい校内体制の構築
- ・ 学校日誌の電子化
- ・ 各校への情報発信と資料提供